

工業会活動

平成20年航空機生産額 昨年比448億円増

経済産業省が2月16日に発表した機械統計年報（速報値）によれば、平成20年（暦年）の航空機生産額は、海外向け民間航空機に減少があったものの、1兆1,867億円で、昨年を448億円上回り、平成18年の過去最高額1兆1,935億円にほぼ匹敵する大きさとなった。内訳は、防衛航空機が865億円増の5,636億円、民間航空機が417億円減の6,231億円、品種別では、機体が328億円増の6,752億円、エンジンが116億円増の3,768億円、その他が4億円増の1,347億円となっている。

我が国の航空機生産額は、民間航空機で国際共同開発の順調な進展に伴い増加してきたが、昨年Boeing787の生産遅延に伴い国内の生産繰延が余儀なくされたことは、国際共同

開発による影響として注目される。

平成20年は、F-2戦闘機の納期後ろ倒しによる大幅増があり、民間航空機の減少にも拘わらず、全体として前年を上回ったが、今後の生産額については、昨今の世界規模の経済危機から民間航空機の伸張が不透明になってきており、防衛航空機も厳しい予算状況が続く見通しであることから、全体生産額の伸びが鈍化することが懸念される。

なお、平成20年の防衛航空機、民間航空機の実生産額比率は、47対53となっている。（機体：53対47、エンジン：26対74）

統計数値の詳細はP.33「平成20年航空機生産実績」を参照のこと。

航空機国内生産額の推移

